

2024年9月11日

各位

会社名 株式会社テンポスホールディングス
代表者名 代表取締役社長 森下 篤史
(コード番号: 2751 スタンダード)
問合せ先 取締役グループ管理部長 森下 和光
TEL 03-3736-0319 (代表)

法人税等調整額（益）の計上、及び連結子会社（株式会社あさくま）の2025年1月期第2四半期（中間期）並びに通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年4月期第1四半期連結会計期間（2024年5月1日～2024年7月31日）において、下記のとおり法人税等調整額（益）を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

また、当社の連結子会社である株式会社あさくまが、2024年3月12日に公表した2025年1月期（2024年2月1日～1月31日）の連結業績予想を別添資料のとおり修正しましたので併せてお知らせいたします。

なお、これによる当社の連結業績予想の修正はありません。

記

1. 法人税等調整額（益）の計上

連結子会社である株式会社あさくまにおいて、株式会社竹若の破産手続きにおける影響額を検討した結果、回収の可能性が見込まれる部分について、繰延税金資産を計上することといたしました。これにより、当社の2025年4月期第1四半期連結会計期間（2024年5月1日～2024年7月31日）において、法人税等調整額（益）247百万円を計上いたしました。

2. 業績に与える影響

上記の内容は、本日公表の「2025年4月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上



2024年9月11日

各位

会社名株式会社 あさくま
代表者名代表取締役社長 廣田 陽一
(東証スタンダード・コード 7678)
問合せ先取締役管理部長 西尾 すみ子
電話番号 052-800-7781(代表)

法人税等調整額（益）の計上、及び2025年1月期第2四半期（中間期）並びに通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年1月期の第2四半期（中間期）の連結決算において、下記のとおり法人税等調整額（益）を計上することとなりましたのでお知らせいたします。また、連結2024年3月12日に公表いたしました2025年1月期（2024年2月1日～2025年1月31日）の連結業績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

なお、2024年1月期より決算日を3月31日から1月31日に変更いたしました。これに伴い、決算期変更の経過期間となる前連結会計年度は、2023年4月1日から2024年1月31日までの10ヶ月間となります。また、前連結会計年度における第2四半期（中間期）は、2023年4月1日から2023年9月30日までとなっており、当連結会計年度とは期間が異なっております。

記

1. 法人税等調整額（益）の計上

2024年6月13日付「2025年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の「重要な後発事象」で公表した通り、破産手続中でありました株式会社竹若は、2024年5月31日付で破産手続廃止の決定がされました。これに伴い、当連結会計年度中において税務上の欠損金が発生いたしますが、来期以降で回収可能性があると判断し、繰延税金資産を計上し、法人税等調整額（益）を247百万円計上することといたしました。

2. 2025年1月期第2四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2024年2月1日～2024年7月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	3,979	138	139	92	17.34
今回修正予想（B）	4,246	98	99	355	66.90
増減額（B－A）	267	△39	△39	263	
増減率（％）	6.7	△28.5	△28.3	286.4	
（ご参考）前期実績 （2024年1月期） 第2四半期（中間期）	3,512	121	129	81	15.37

3. 2025年1月期通期連結業績予想数値の修正（2024年2月1日～2025年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	8,570	431	435	315	59.51
今回修正予想（B）	8,570	431	435	546	102.76
増減額（B－A）	0	0	0	231	
増減率（％）	0.0	0.0	0.0	73.3	
（ご参考）前期実績 （2024年1月期）	6,101	174	184	130	24.56

4. 修正の理由

2025年1月期第2四半期（中間期）連結累計期間の業績につきましては、経済・社会活動の正常化が進み、外食需要の回復基調が続く、来店客数は着実に回復して売上高は堅調に推移いたしました。

損益面につきましては、粗利益高の最大化に向けた原価管理の徹底、及び人時客数の管理による労務費の適正化などによって収益性の向上を図ってまいりましたが、為替の影響による原材料価格やエネルギー価格の高止まりに加え、慢性的な労働力不足による人件費の影響など、あらゆるコストが想定を上回ったことから、営業利益、経常利益は前回発表予想を下回る結果となりました。

また、上記「1. 法人税等調整額（益）の計上」に記載のとおり、当連結会計年度第2四半期（中間期）において、法人税等及び法人税等調整額に変動があり、親会社株主に帰属する中間純利益が増加する見込みであります。

なお、通期連結業績予想につきましては、当中間期の変動を総合的に勘案した結果、上記のとおり業績予想数値を修正しております。

（注）上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上